

「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会」の設置について

1. 設置趣旨

地殻変動等の観測データとその評価に基づいて、防災・減災のために、大地震発生前にどのような防災対応を実施すべきであるのか等について検討を行うために、中央防災会議 防災対策実行会議のもとに、「南海トラフ沿いの地震観測・評価に基づく防災対応検討ワーキンググループ」（以下「南海トラフ防災対応ワーキング」という。）を設置した。

南海トラフ防災対応ワーキングでの議論は、「南海トラフ沿いの地震の予測可能性」や「地震発生前にどのようなことが観測されうるのか」という科学的知見を踏まえた上で進める必要がある。

平成25年5月に中央防災会議 防災対策推進検討会議「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」に調査部会を設置し、南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性についての報告書（以下「前回報告書」という。）がまとめられているところであるが、それから3年以上が経過し、この間に地震発生予測に関連する新たな研究成果が発表されてきている。

このため、前回報告書にそれ以降の新たな知見を追加するとともに、南海トラフ沿いの地震について、地震発生の多様性をふまえ、様々な事象が観測された場合の地震発生の可能性についても検討を行い、現時点における大規模地震の予測可能性についての科学的な知見の整理を行うことを目的として、「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会」を設置する。

本調査部会の検討結果は、南海トラフ防災対応ワーキングに報告する。

2. 委員

座長	やまおか 山岡	こうしゆん 耕春	名古屋大学大学院環境学研究科・教授
	い で 井出	さとし 哲	東京大学大学院理学系研究科・教授
	ながお 長尾	としやす 年恭	東海大学海洋研究所長・教授
	はしもと 橋本	まなぶ 学	京都大学防災研究所・教授
	ほり 堀	たかね 高峰	国立研究開発法人 海洋研究開発機構 地震津波海域観測研究 開発センター 地震津波予測研究グループ・グループリーダー
	まつざわ 松澤	とおる 暢	東北大学大学院理学研究科・教授

(平成24年7月に中央防災会議 防災対策推進検討会議「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ」に設置された「南海トラフ沿いの大規模地震の予測可能性に関する調査部会」の委員と同一)

3. 主な調査内容

平成25年5月の報告に加え、以下の内容等を整理する。

- 近年の地震・地殻変動等観測・研究により新たに得られた、地震発生予測に関する知見
- 地震発生の多様性をふまえた、様々な事象が観測された場合の地震発生の可能性について

4. スケジュール (予定)

9月 第1回開催

10月 とりまとめ

本ワーキンググループ第2回でとりまとめ内容を報告